



2025 年 春季 モンキードッグ

活動報告書

ニホンザル相生群に対する追払いの実施と効果

要約

本報告書は、徳島県那賀町において 2025 年春に実施された、モンキードッグ「シロ」と「ボチ」による野生ニホンザル（相生群）への追払い活動の記録と分析である。活動開始前（2024 年）と追払い実施後（2025 年）のサルの行動圏を比較し、GPS データや出動記録、空間分布図を用いてその効果を検証した。その結果、追払い開始後のサルは人里への接近頻度が減少し、行動範囲が狭まり、山中へ移動する傾向が強まった。これは、モンキードッグが野生動物と人との距離を保つうえで効果的であることを示している。本書では、現場での運用実態や地域との連携、そして今後の持続的な導入に向けた提言も併せて記述している。

python-docx

合同会社獣害対策研究所 代表 吉田洋

【最終版】モンキードッグの活動報告

対象：野生ニホンザル「相生群」

モンキードッグ：シロ、ポチ

期間：2025 年 3 月～5 月（※GPS はバッテリー切れにより 4 月 15 日までのデータ）

1. はじめに

本報告書は、2025 年春に徳島県那賀町で実施された「モンキードッグ」によるニホンザルの追払い活動の記録である。表紙に写っているのは、今回の活動に出動した犬たち「シロ」と「ポチ」が幼少期に撮影された一枚である。

モンキードッグとは、犬の本能的な行動を活かして、野生動物（本事例では主にニホンザル）の集落接近や農作物被害を未然に防ぐ取り組みであり、人的な限界のある山間地域において、極めて有効な対応手段として注目されている。

本報告書では、相生群と名付けられたサルの群れに対し、モンキードッグがどのように出動・追跡を行い、その結果としてサルの行動圏や出没傾向にどのような変化が見られたのかを、出動記録・GPS データ・行動圏解析図などの情報をもとに検討する。あわせて、活動の効果や課題、今後の継続運用に向けた示唆についても論じる。

2. 調査・追払いの方法

2.1 使用したデータ

調査には以下のデータを使用した。

- ・相生群の GPS データ（GLT-02：サーキットデザイン社製）

2024 年 3～4 月および 2025 年 3～4 月の位置情報（0 時、3 時、6 時、9 時、12 時、15 時、18 時、21 時に測定）

※4 月は 15 日までのデータを使用

- ・モンキードッグの GPS データ（i-gatU GT-600：Mobile Action Technology 社製）

1 秒ごとの位置情報を取得

- ・モンキードッグの出動履歴

出動日時、対象エリア、追払い距離、サルの反応などを記録

2.2 追払いの実施方法

追払いは次の手順で行った。

1. サルの位置を確認：GPS データをもとに相生群の居場所を特定。
2. モンキードッグを出動：シロとポチを現場に向かわせ、追払いを実施。
3. 追払いの記録：モンキードッグの GPS データと出動履歴を詳細に記録。
4. 効果の評価：サルの移動パターンを分析し、モンキードッグの影響を検証。

3. 結果

3.1 モンキードッグの活動記録とサルによる被害の変化

- ・出動回数：22 回

- ・モンキードッグの平均移動距離：2.2km

2025 年 3 月から 5 月までの期間において、那賀町内で相生群による相生群の出没が延べ 9 日、被害を伴う出没は 7 日確認された（表 1）。そのうち農作物被害が発生したのは 3 月 6 日および 3 月 7 日の 2 件で、いずれも音谷地区において柑橘類の果実が食害を受けた（写真 1）。

図 1 に示すとおり、出没被害の頻度は 3 月が最も多く（50%）、次いで 5 月（29%）、4 月（22%）と推移した。農作物被害については 3 月に限定されており、4 月以降は被害の発生は確認されていない。

出没地点は、3 月は音谷地区に集中していたが、時間の経過とともに横石、朴野、水崎、大久保といった周辺地域へと拡散した。ただし 5 月には再び朴野・大久保周辺に絞られ、行動範囲が限定的になっている様子もみられた。

モンキードッグ（シロ・ポチ）は、上記期間中に延べ 22 回出動した（表 1）。1 回あたりの追跡距離は最長で 8.0km（4 月 1 日、朴野堂ノ東）であり、シロの平均移動距離は約 2.0km、ポチは約 2.3km であった。

表 1. モンキードッグの出動記録（2025 年 3 月～5 月）

日付	地点	シロ	ポチ	出没	被害	備考
3/3	音谷西平間	-	-	🚫	-	人里まで距離があるため、追払わず。
3/6	音谷西平間	0.8km	1.2km	🐾	🍊 柑橘類	
3/7	音谷滝倉	0.4km	0.9km	🐾	🍊 柑橘類	
3/7	音谷田ノ久保	1.1km	1.1km	🚫	-	
3/10	横石向原	-	-	🚫	-	犬がサルを見失う。
3/13	朴野下原	0.9km	1.2km	🐾	-	
3/17	横石向原	0.6km	0.7km	🐾	-	
3/20	横石向原	0.3km	0.4km	🚫	-	
3/25	音谷田ノ久保	1.6km	3.0km	🚫	-	
3/26	水崎水崎原	1.1km	1.2km	🐾	-	
3/31	朴野下原	3.1km	3.4km	🚫	-	
4/1	朴野堂ノ東	6.9km	8.0km	🐾	-	
4/7	朴野堂ノ東	2.9km	3.7km	🚫	-	
4/8	日浦	-	-	🚫	-	人里まで距離があるため、追払わず。
4/15	朴野堂ノ東	0.9km	1.0km	🚫	-	
4/15	朴野	※欠損値	2.5km	🚫	-	※GPSロガーが途中で止まったため。
4/16	朴野	1.2km	1.3km	🚫	-	
4/21	鉢	-	-	🚫	-	犬がサルを見失う。
4/24	朴野堂ノ東	0.5km	0.5km	🚫	-	
4/29	大久保	0.5km	-	🐾	-	
4/30	大久保	5.8km	6.4km	🚫	-	
5/5	横石向原	-	-	🚫	-	人里まで距離があるため、追払わず。
5/6	朴野堂ノ東	2.5km	2.6km	🚫	-	
5/13	朴野東曾根	1.3km	1.3km	🚫	-	
5/15	朴野東曾根	1.2km	0.2km	🐾	-	
5/19	水崎水崎原	5.7km	4.8km	🐾	-	
5/26	大久保	0.8km	0.8km	🚫	-	
5/27	大久保	4.8km	4.4km	🚫	-	

凡例 🐾 | サルの集落への出没を確認 🚫 | サルの集落への出没なし



写真 1. 音谷地区にて発見された夏みかんの食害痕（2025 年 3 月 7 日撮影）。果実の一部が齧られ、地面にも落果が見られた。

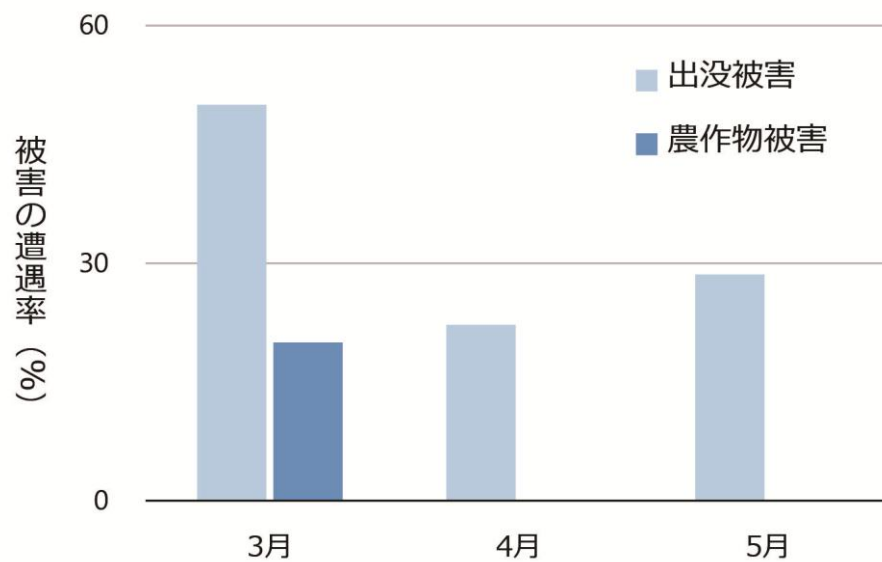


図 1. 相生群が遭遇時に発生させていた被害の種類と頻度（2025 年 3 月～5 月）

3.2 サルの土地利用の変化

2024 年および 2025 年の同時期（3 月前半・3 月後半・4 月前半）における相生群の行動圏は、k-LoCoH 法により 50%行動圏（以下「コアエリア」）と 95%行動圏をそれぞれ推定した（図 2～図 4）。これらの図からは、両年の行動パターンの違いに加え、2025 年内における時間的な行動圏の変化が読み取れる。

2024 年には追払いが行われておらず、図に示される行動圏は谷沿いや集落周辺に広く拡散していた。特に 95%行動圏は、音谷・横石・朴野の 3 集落を含むように放射状に広がっており、農地や人家と重なる空間も多く、相生群の出没リスクが高かったと考えられる。

これに対して、2025 年は 3 月からモンキードッグによる追払いを継続的に実施したことにより、行動圏の面積が縮小し、分布も変化した。図 2（3 月 1 日～15 日）では、音谷周辺に 50%行動圏が残っていたが、図 3（3 月 16 日～31 日）では中心が横石方面へ東進し、音谷との重なりは少なくなった。さらに図 4（4 月 1 日～15 日）では、50%行動圏の中心が朴野の山林部へ移り、集落からの距離が明確に保たれるようになった。

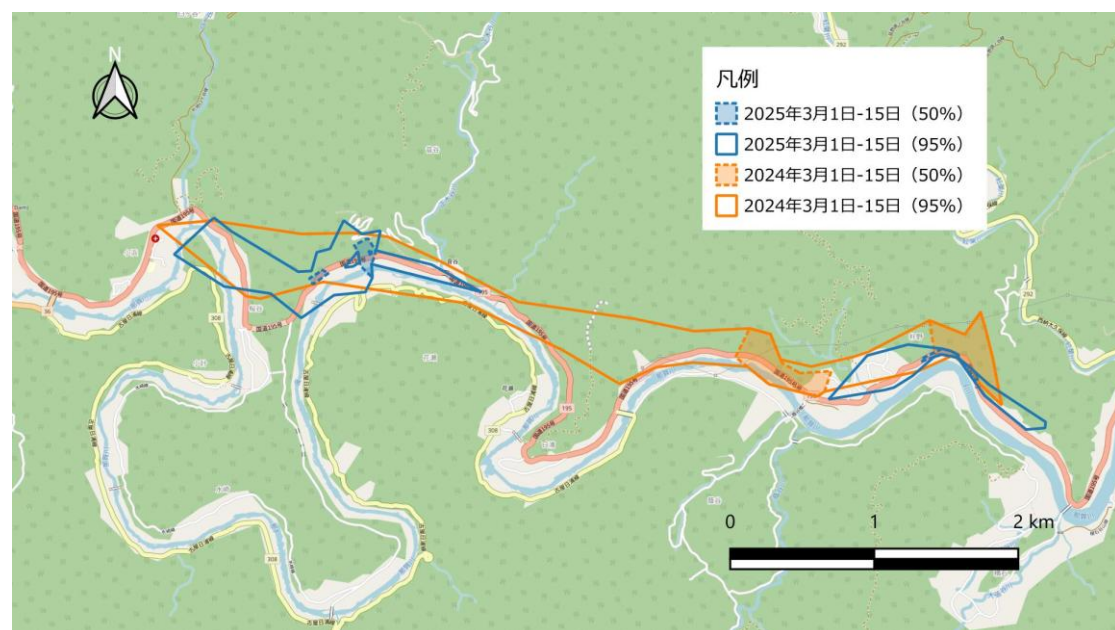


図 2. 2024 年および 2025 年の 3 月 1 日～15 日におけるニホンザル「相生群」の 95%および 50%行動圏（k-LoCoH 法）

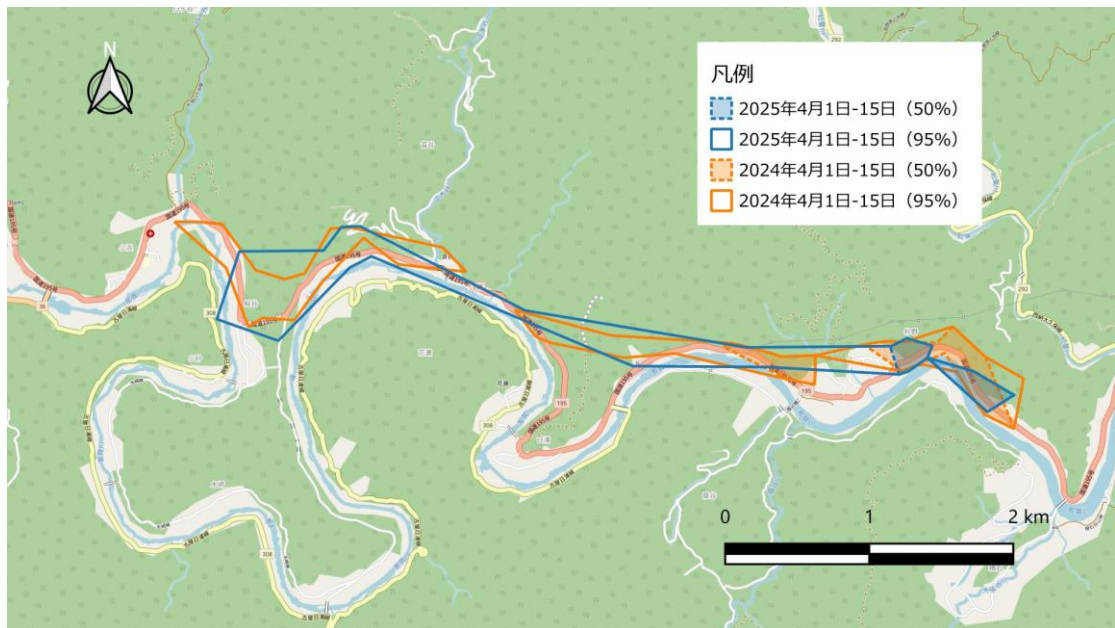


図 3. 2024 年および 2025 年の 3 月 15 日～31 日におけるニホンザル「相生群」の 95%および 50%行動圏 (k-LoCoH 法)

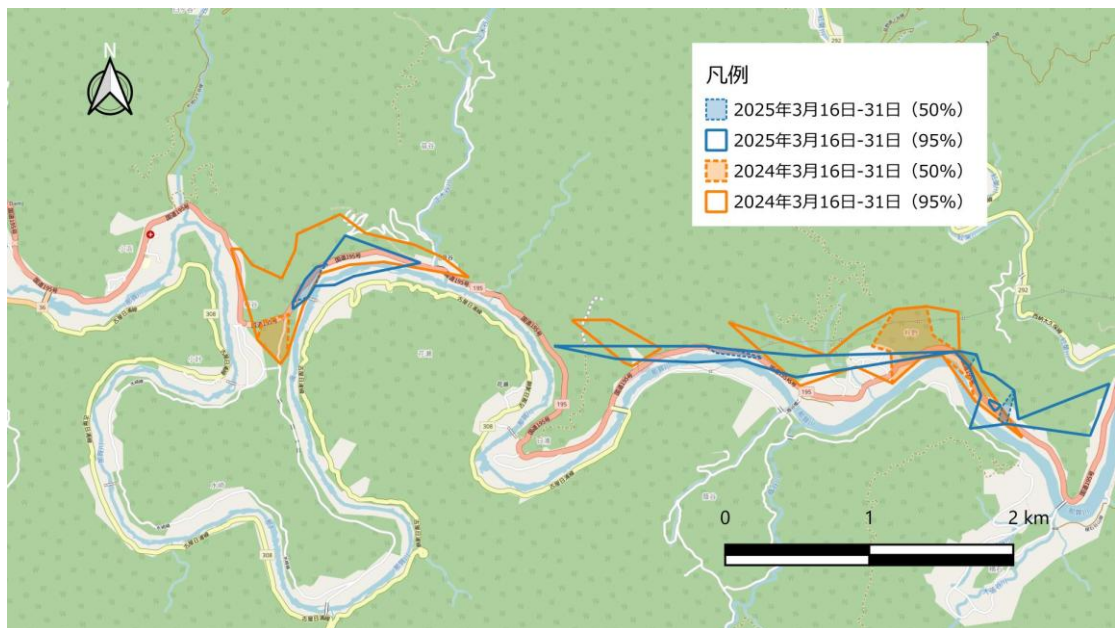


図 4. 2024 年および 2025 年の 4 月 1 日～15 日におけるニホンザル「相生群」の 95%および 50%行動圏 (k-LoCoH 法)

・音谷西平間集落・音谷田ノ久保集落

図5は、2024年および2025年の3月前半における相生群の行動圏とGPSポイントの分布を示している。2024年では、音谷集落周辺の耕作地や人家に近い場所にGPSポイントが広く分布している一方で、50%行動圏（コアエリア）は音谷から外れた山側に形成されており、行動の中心は人里とはやや距離があった。一方、2025年では音谷を含む範囲に50%行動圏が形成されており、GPSポイントも集中的に分布していることから、音谷が相生群の行動の中心となっていたことが示唆される。



図5. 野生ニホンザル「相生群」の位置と、モンキードッグの軌跡（2024年および2025年の3月1日～15日）

3月後半には（図6）、2024年は引き続き音谷周辺にGPSポイントが多数記録され、集落付近での利用が継続していたことがわかる。これに対し2025年は、50%行動圏の中心が音谷集落の東側へと移動し、GPSポイントの分布も山中寄りにシフトしており、行動の重心が人里から離れつつあることが読み取れる。

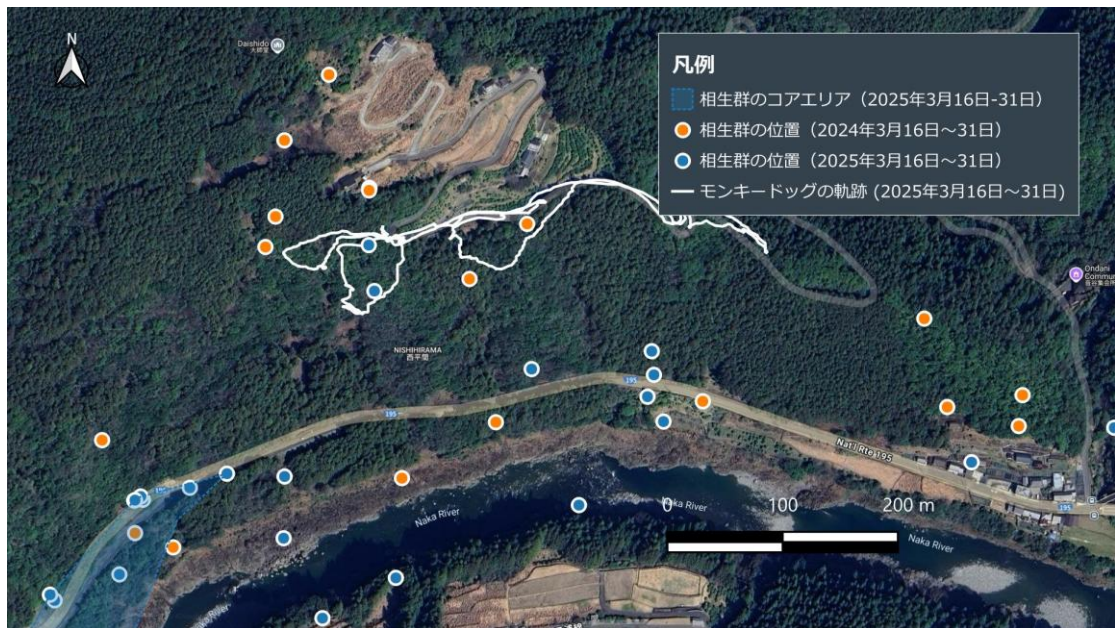


図 6. 野生ニホンザル「相生群」の位置と、モンキードッグの軌跡（2024 年および 2025 年の 3 月 16 日～31 日）

4 月前半には（図 7）、2024 年は音谷に GPS ポイントが点在しているものの、50%行動圏は音谷から明確に外れており、同地域は行動の中心から外れていた。一方で、2025 年は GPS ポイントの密度がさらに東方に集中し、音谷集落と重なる記録はほとんど見られず、出没は大幅に減少していたことが示されている。



図 7. 野生ニホンザル「相生群」の位置と、モンキードッグの軌跡（2024 年および 2025 年の 4 月 1 日～15 日）

・横石向原集落、朴野下原集落

3月前半には（図8）には、2024年はGPSポイントが谷筋や集落背後の山林に分散して記録され、50%行動圏は集落からやや離れた斜面に形成されていた。一方、2025年は、50%行動圏が集落背後の山林にかかっており、GPSポイントもより集中的に分布していることから、音谷から移動してきた相生群の行動の重心が横石に一時的に集中していたことが示唆される。



図8. 野生ニホンザル「相生群」の位置と、モンキードッグの軌跡（2024年および2025年の3月1日～15日）

3月後半には（図9）、2024年には引き続きGPSポイントが谷沿いに広く分布しており、50%行動圏は集落の北側に位置していた。2025年では、行動圏が東寄りへ移動し、GPSポイントも徐々に集落から離れた山林部へと集中していた。これにより、相生群の行動中心が横石からさらに東へ移りつつある様子が読み取れる。



図 9. 野生ニホンザル「相生群」の位置と、モンキードッグの軌跡（2024 年および 2025 年の 3 月 16 日～31 日）

4 月前半には（図 10）、2024 年は 50%行動圏が谷全体に広がり、GPS ポイントも集落周辺に継続して記録されていた。対照的に、2025 年は横石地区の南東部にごくわずかに GPS ポイントが残るのみで、50%行動圏の中心も横石から外れていた。これにより、4 月前半には横石での出没がほとんど見られなくなっていたことが明らかである。



図 10. 野生ニホンザル「相生群」の位置と、モンキードッグの軌跡（2024 年および 2025 年の 4 月 1 日～15 日）

・朴野堂ノ東集落・東曽根集落

3 月前半には（図 11）、2024 年は GPS ポイントが山間部に点在し、50%行動圏も集落からやや離れた谷沿いに存在していた。2025 年では、朴野における GPS 記録や行動圏はごく一部にとどまり、まだ明確な空間利用は見られていなかった。

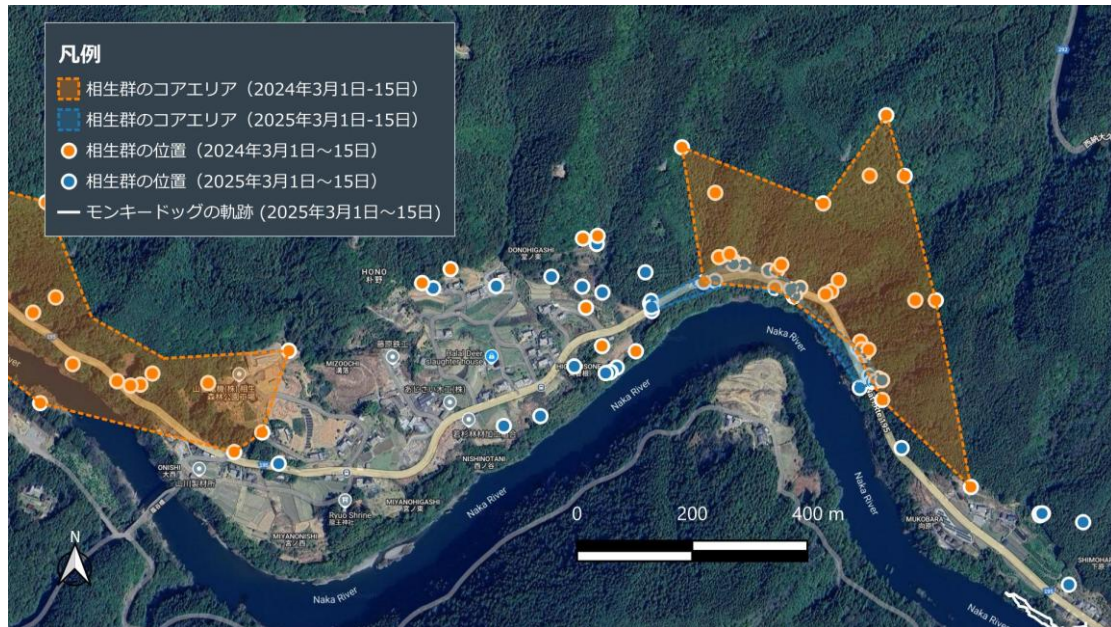


図 11. 野生ニホンザル「相生群」の位置と、モンキードッグの軌跡（2024 年および 2025 年の 3 月 1 日～15 日）

3 月後半（図 12）では、2024 年は 50%行動圏が朴野集落から南東部に形成されており、GPS ポイントも谷沿いに分布していた。2025 年では、朴野周辺の GPS ポイントの密度が増し、行動圏の中心が朴野寄りに移行しており、音谷・横石からの段階的な移動が進行していたと考えられる。

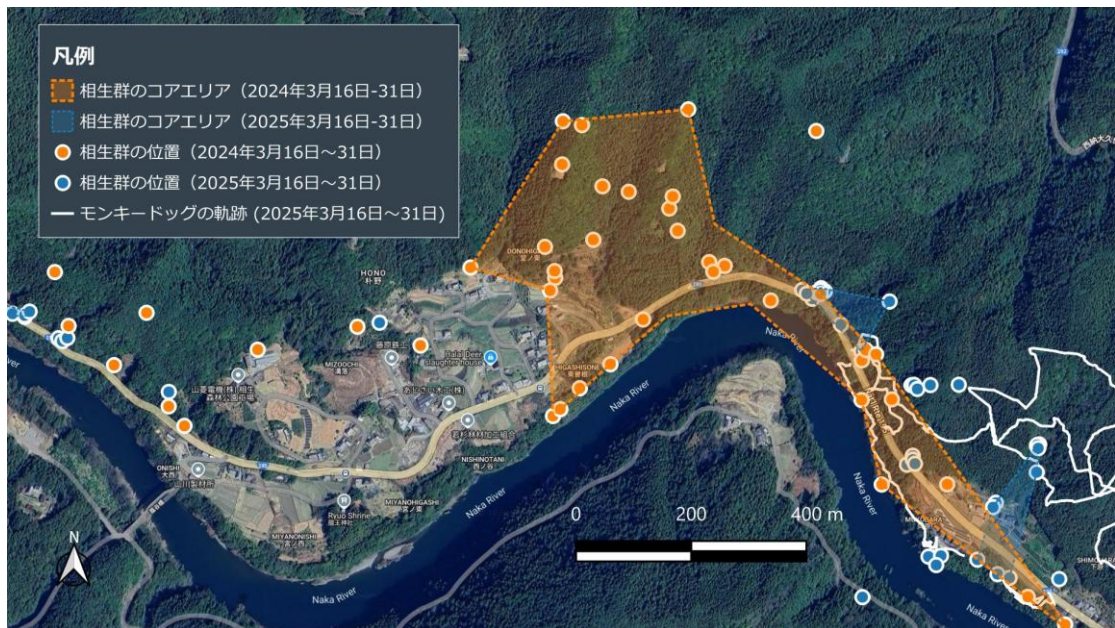


図 12. 野生ニホンザル「相生群」の位置と、モンキードッグの軌跡（2024 年および 2025 年の 3 月 16 日～31 日）

4 月前半では（図 13）、2024 年は 50%行動圏がさらに拡大し、集落周辺から広く山間部を含む分布となっていた。2025 年は、50%行動圏が朴野集落の北東部に形成され、GPS ポイントも集中的に存在していたことから、この時期には朴野周辺が相生群の主要な利用空間となっていたことが示される。

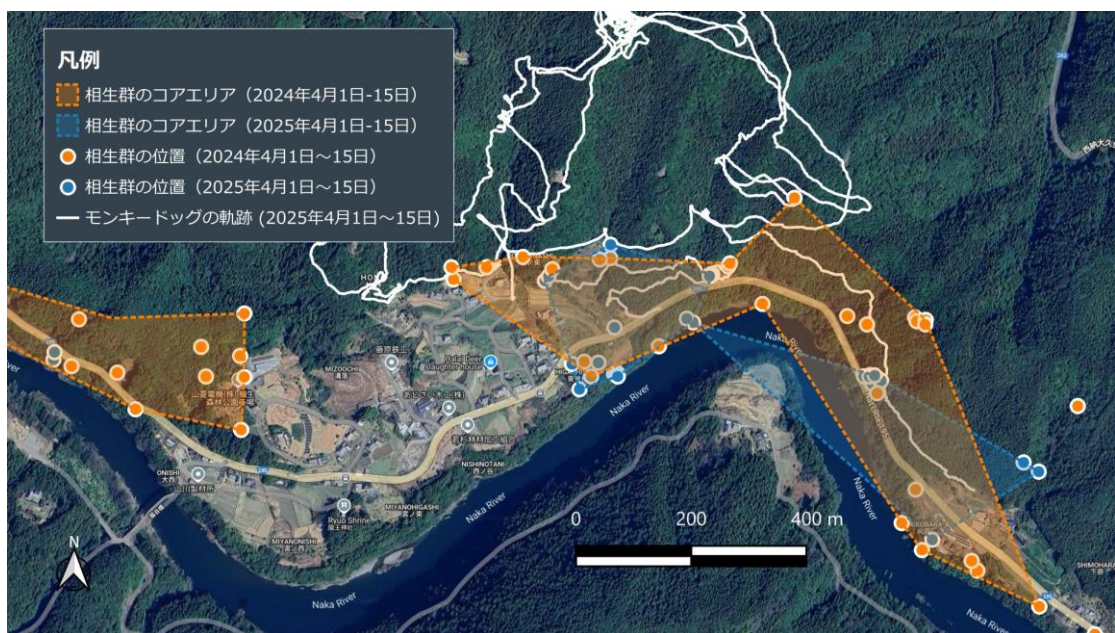


図 13. 野生ニホンザル「相生群」の位置と、モンキードッグの軌跡（2024 年および 2025 年の 4 月 1 日～15 日）

4. 考察

本調査では、モンキードッグによる追払い活動が、野生ニホンザルの群れ「相生群」の空間行動に与える影響を明らかにすることを目的とした。2024年には追払いを実施していないため、相生群の行動圏は谷沿いや複数の集落周辺に広く拡散していた。特に95%行動圏は音谷・横石・朴野を含む広範な範囲に及び、人里との接触機会が多かったことが示されている。

一方、2025年にはモンキードッグの継続的な追払いにより、行動圏が明らかに縮小し、人家や農地との重なりも減少した。特に、3月前半の音谷から、3月後半の横石、4月前半の朴野へと、相生群の行動の中心が段階的に人里から離れていく様子がGPSデータと行動圏の推移から読み取れた。このような変化は、モンキードッグの出動が相生群に空間的な圧力を与え、人里への接近を抑制していた可能性を示唆するものである。

5. まとめ

モンキードッグによる追払いは、単なる出没防止にとどまらず、サルの空間利用そのものに影響を与える有効な手段であることが示された。2025年のデータでは、行動圏の縮小、出没件数の減少、農作物被害の限定化など、複数の観点からその効果が確認された。本成果を踏まえ、今後の対策では以下の点を重視すべきである。

・継続的な追跡と出動記録の統合管理

時系列で行動圏の変化を把握するため、サルのGPSデータ、モンキードッグの出動記録、被害情報を一体的に記録・分析する体制の継続が求められる。

・初動対応の強化と柔軟な出動判断

特定の“重点地域”に限らず、どの集落にサルが接近した場合でも迅速に対応できる体制が不可欠である。特に、3月のように出没が集中する時期に限らず、通年での備えが必要である。

・GPS発信器の活用による現場対応の精度向上

サルに装着したGPS発信器は、常時リアルタイムの把握には限界があるものの、最新の位置情報や移動傾向を現場で参照することで、サルの迅速な発見や逃走方向の推定が可能になる。これにより、モンキードッグの出動判断や追跡方向の精度向上に寄与する。

謝辞

本報告書で紹介したモンキードッグによる追払い活動は、2024年度に実施したクラウドファンディング「サルによる被害を防ぐ犬『モンキードッグ』を徳島・南阿波で活かしたい」にご支援いただいた皆様のご協力により実現したものです。

多くの方々からのご支援と励ましの言葉が、現場での取り組みを支える大きな力となりました。ここに改めて、心より御礼申し上げます。

皆様からのご支援により、サルによる農作物被害の抑制に向けた有効な手段として、モンキードッグの実地運用とその効果の可視化が可能となりました。今後も本成果を活かし、持続可能な鳥獣被害対策の構築に努めてまいります。

合同会社 獣害対策研究所 所長 吉田 洋



🐾 私たちは、ここにいる。

人と野生動物が、互いの領域を尊重しながら暮らせるように。
モンキードッグ「シロ」と「ポチ」、そして地域の皆さんとともに歩んだ春。

この活動は、まだ「始まり」にすぎません。



📍 発行：合同会社 獣害対策研究所

〒771-5206 徳島県那賀郡那賀町百合字松の木 234-1

代表：吉田 洋